

卒業生からの メッセージ

佐賀大学での学びを活かし、様々な分野で活躍する卒業生たち。
そんな先輩方の現在の思いや大学生活の過ごし方など、
皆さんへのアドバイスを熱く語って頂きました。

「教わる側」から「教える側」へ。 大学で得た知識や経験を生かし、 子どもに寄り添える先生に。

母が小学校の教師だったこともあり、小さい頃から小学校の先生は憧れの職業でした。現在は小学校4年生の担任として、29人の子どもたちが主体的に活動し、お互いに良さを認め合えるような学級作りに励んでいます。常々心がけていることは「子どもの気持ちに寄り添うこと。」子どもたちと一緒に考えながら授業実践をし、子どもたちの良い面を見つけ伸ばすように心がけています。叱るべき場面がある時も頭ごなしに叱責せず、「なぜ、どうして」を子ども自信が考えていけるように導いています。

大学では、教育全般について学びました。英語分野に所属していたので、外国語活動についても詳しく学び、中学・高校の英語の免許も取得しました。また、教員になった際、知識が役立てられるよう特別支援学校の免許も取得しました。4つの免許を取得するため授業数も多く大変でしたが、今教師となって生かせることはとても多いです。

同じ夢を持った友達に多く出会える場所が大学です。辛い時や試験勉強の中で、励まし合いながら頑張ることができました。そんな大切な仲間と一緒に、夢に向かって必要な知識や経験をたくさん学んでください。



多久市立東原彦舎中央校(義務教育学校) 勤務
田中 佑香 さん

文化教育学部学校教育学科2015年3月卒
(佐賀県立三養基高等学校出身)

恩師や友達との出会いが 今の自分をつくっている。 伝統を継承しながら、 自分らしい作品を発表していきたい。

家業である小石原焼の窯元を継ぐため、そこで伝統的な小石原焼の器や、焼き物で現代アートといわれる造形的な作品づくりをしています。生まれ育った場所が職場ですから、何の違和感もなく自然体で働けます。親と一緒に仕事をしていると、ぶつかることもありますが、私がやっている造形的な作品に理解を示し、見守っていただけているので仕事はやりやすい環境です。おかげで自分らしい作品づくりに集中できています。

私が現在取り組んでいる造形的な作品づくりのきっかけとなったのは、大学でお会いした恩師のお陰です。この出会いがなければ今のような作品制作はしていなかったでしょう。社会に出た後、作品制作に行き詰った時もその存在は大きく、恩師からは制作に対する考え方や姿勢を学びました。大学で出会った恩師をはじめ、学生時代を共に過ごした友達のお陰で、今の自分があると思っています。

自分自身が動けばその分自分に返ってくるのが大学です。大学では、自分の目指す場所に向かい、一生懸命頑張ってください。佐賀大学の先生方は、生徒と真摯に向き合っていただける方ばかりだと思います。



小石原焼 森山寛二郎 勤務
森山 寛二郎 さん

文化教育学部美術・工芸課程2007年3月卒
(佐賀県立有田工業高等学校出身)



口にだしたことは有言“即”実行。 知識力、技術力、営業力の高い SEを目指していきたい。

私が富士通のシステムエンジニア（以下SE）を選んだ理由は3点です。

- 1、父がSEであり、仕事の話小さいころから聞きその仕事にやりがいを感じたためです。
- 2、SEという仕事を通して、自身の技術力とコミュニケーション力を磨けると考えたためです。
- 3、富士通の高い目標を掲げ、粘り強く取り組むチャレンジの姿勢に魅力を感じたためです。

現在は新入社員研修を通して、社会人に必要となる基礎力を学習することで、FUJITSUパーソンとしての学びを深め、配属後にスムーズに働くことが出来るように訓練しております。

佐賀大学で学んだ中で、私の人生に大きな影響を与えた学問は、起業家精神論と経営情報論です。起業家精神論では、日韓交流のビジネスプランコンテストに参加したり、最先端のビジネスフレームワークを学習したりとたくさんの刺激を受けました。経営情報論ではICTの発達に対して人間はどのような働き方をしていくべきかなど、今後の社会に対しての重要な課題をわかりやすく教えていただきました。また、ゼミでの共同研究や運営の体験は、今後のSEの仕事においても私の大きな財産になっていくと考えております。

一生の思い出になる友人たちとのふれあいや高い社会人実践力を求める方に、私は佐賀大学をおすすめいたします。



富士通株式会社 勤務

林 璃央 さん

経済学部経営学科2017年3月卒
(福岡県立福岡中央高等学校出身)

医学部創設時から受け継がれる 「地域医療に貢献する」という マインドを胸に、佐賀から 未来の医療の形の提案・発信を。

実家は100年以上地域医療を担っている病院です。両親ともに医師であり、病院は身近なものでした。医師を目指すことに抵抗があった時期もありましたが、自分自身が織田病院に入院した際、地域医療の重要性を実感し、医学部を目指しました。卒後は佐賀大学胸部・心臓血管外科に入局し、心臓血管外科治療を通じて医師としての基礎を徹底的に学びました。現在は総合診療医として、大学病院での専門的治療の他、地域の診療所・病院での地域医療も行い、急性期から慢性期まで、重症度や疾患を問わず診療にあたっています。総合診療部では、国内外問わず、学会発表、論文発表に積極的に教育体制も整備されているため、臨床だけでなく、医師としての幅を広げる機会が多くあります。

大学でのPBLという自主性を重視した講義形式は今でも非常に役に立っています。また部活を通して培った「one for all, all for one」の精神は自分の原点とも言えます。学生時代の繋がり、出会いはかけがえないものであり、今でも様々な場面で助けられています。

今、佐賀での医療の取り組みは、様々なメディアで取り上げられており、全国からも注目を集めています。地方にこそ未来の日本の姿があると思います。佐賀大学から未来の医療・介護の形を提案し、発信しましょう！



佐賀大学医学部附属病院総合診療部 勤務

織田 良正 さん

医学部医学科2007年3月卒
(佐賀県弘学館高等学校出身)

世の中の役に立つ 「ものづくり」「ことづくり」のために 視野を広げ、技術を磨こう

学生時代はプログラムを専攻していたため、将来はIT関連の業務に就きたいと考えていました。就職活動では、システム開発にとどまらない事業活動を展開している会社が良いと思い、今の会社に決めました。

入社後は、学生時代に学んだIT知識を基礎に、工場の印刷データ管理システムや、学校教育向けに努力する力を育てるデジタル教材の開発・提供に関わることで、知識や視点を増やし、技術を磨いています。現在は福岡にて、お客様と共に地域の方々が利用するICTサービスの提供や、事業創造を進めています。

大学時代は、多くの時間があります。その中で専攻する学問を追求していきますが、その学問が世の中にとってどのように役立つことができるのか、を考え、視野を広げ、技術を磨き、自分の可能性をグイグイと広げる時間にしてください。佐賀大学は、地域貢献活動や、産学連携にも力をいれ、さまざまな研究施設も備えています。皆さんにとって、きっと良いフィールドとなると思います。



凸版印刷株式会社 勤務

高田 大嗣 さん

理工学部電気電子工学科2005年3月卒
(福岡県東福岡高等学校出身)



カネコ種苗株式会社 花き育種研究室 勤務

本多 健作 さん

農学部生物環境科2015年3月卒
(福岡県立香住丘高等学校出身)

生産者や消費者の多様なニーズに 応えるべく、幅広い知識と技術で 野菜や花と向き合う。

就職する上で、自分の中で衣食住の「食」に関与する「なくてはならない会社」で働きたいというのはひとつのテーマでした。大学時代に花きを対象とした研究に携わっていたため、「育種」という職種に元々興味があり、自分のやりたいことを実現するために相応しい今の職場を選びました。

社内では主に花きの育種、国内外から導入した家庭園芸用の野菜・花の試作栽培管理、選抜を行っています。毎日多くの系統の観察や管理が必要なのはもちろん、国内では流通のない新規の野菜や花と向き合う際に、幅広い知識と技術が求められます。日中のほとんどが屋外での作業なので、普段の生活や体づくりにも注意し、私自身も着実なステップアップを目指しています。在学中は農学に関する講義はもちろん、国内での学会へ多く参加する機会もあり、このような経験から得た知識や情報は現在の業務に役だっていると実感しています。

大学では、将来の自分を見据えた学生生活を送ってください。多くの人や事柄に興味、関心を持ち、自分の視野を広げてみてください。